

大豆のうね間かん水を行いましょう！

梅雨明け後、降雨は少なく、高温の日が続いており、今後も高温・少雨の傾向が続くと予想されています。

大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、この期間の水不足は落花や落莢による減収につながります。大豆の水不足を回避するため、「**うね間かん水**」を行いましょう。

【本葉 5～6 葉展開後の場合】

- 水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「**うね間かん水**」を行いましょう。
- 排水溝（明渠）から思い切って「うね」の中まで水を走らせ、「うね」の肩を超すぐらいまで、土を湿らせてください。（→排水溝のみの通水では、「うね」の中央まで水分補給できません）



【播種直後から生育初期の場合】

- 通常、本葉 5～6 葉期ごろまで、かん水の必要はありません。
- 生育が進み、本葉 5～6 葉期ごろに水不足の状態となつてから、「うね間かん水」を行いましょう。



- ◎「うね間かん水」は短時間で行います。ほ場全体に水が行き渡ったのち、ただちに水尻の板をはずして、速やかに排水してください。長時間、かん水しなければ大豆に悪影響はありません。
- ◎送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分け、数日かけて徐々に入水してください。

農作業中はこまめな塩分・水分補給や休憩など、熱中症対策を行いましょう！